

Webアプリケーションフレームワーク openGion 標準エラーメッセージ

Webエンジン Ver. 5.0対応
リリース 2.0

初版 : 2003 年 3 月
第 2 版 : 2012 年 6 月 Ver5 対応



*Muratec Information
Systems.LTD.*

Webアプリケーション 標準エラーメッセージ, リリース 2.0

原本部品番号:W1C0001-20

原本名: openGion Web Application Framework Standard Error Messages, Release 2.0

原本著者: 長谷川 和彦

デザイン: 久田 雅子

Copyright © 2012, MURATEC INFORMATION SYSTEMS,LTD. All rights reserved.

Printed in Japan

制限付権利の説明

プログラム(ソフトウェアおよびドキュメントを含む)の使用、複製または開示は、ムラテック情報システムとの契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。ムラテック情報システムは本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* ムラテック情報システムとは、ムラテック情報システム株式会社を指します。

危険な用途への使用について

ムラテック情報システム製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。ムラテック情報システム社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、ムラテック情報システムおよびその関連会社は一切責任を負いかねます。

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

第Ⅰ部	概要	7
第1章	リソース情報	8
1.	リソース管理	8
2.	リソースの階層管理	9
第2章	メッセージの使用方法	10
1.	メッセージの種類	10
2.	国際化対応	10
3.	リソースの取得先	10
4.	メッセージの文法	11
5.	メッセージの表示	11
6.	PL／SQLのエラーメッセージ	12
第Ⅱ部	システム予約メッセージ一覧	14
第3章	標準メッセージ	15
第4章	エラーメッセージ	18

はじめに

このマニュアルでは、Webアプリケーション製品の使用中表示されるエラー・メッセージについて説明します。このマニュアルでは、各メッセージについて、メッセージの文、および考えられる原因と処置の方法を説明しています。メッセージが警告であったり、エラーの発生を表している場合は、解決方法を示します。

《対象読者》

このマニュアルは、全てのWebアプリケーションユーザーを対象としています。

《本文の表記規則》

本文中には、特別な用語が一目でわかるように様々な表記規則が使用されています。次の表は、本文の表記規則を示しています。

規則	意味
太字	太字は、本文中に定義されている用語または用語集に含まれている用語、あるいはその両方を示します。この句を指定する場合は、索引構成表を作成します。
大文字	大文字は、システムにより指定される要素を示します。
小文字	小文字は、実行可能ファイル、ファイル名、ディレクトリ名およびサンプルのユーザー指定要素を示します。 注意: 一部のプログラム要素には、大文字と小文字の両方が使用されます。この場合は、記載されているとおりに入力してください。
イタリック	イタリックは、プレースフォルダまたは変数を示します。

《コード例の表記規則》

次の表は、コード例の記載上の表記規則を示しています。

規則	意味
[]	大カッコで囲まれている項目は、1 つ以上のオプション項目を示します。大カッコ自体は入力しないでください。
{ }	中カッコで囲まれている項目は、そのうちの 1 つのみが必要であることを示します。中カッコ自体は入力しないでください。
	縦線は、大カッコまたは中カッコ内の複数の選択肢を区切るために使用します。オプションのうち 1 つを入力します。縦線自体は入力しないでください。
… ⋮	省略記号は、例に直接関係のないコード部分が省略されていることを示します。

《アイコン》

本文中には、特別な情報を知らせるために、次のアイコンが用意されています。



ヒント

提案や秘訣を示し、これらによって、時間の節約や手順の容易化などを実現できる場合があります。



警告

システムに致命的な影響を及ぼす可能性のあるアクションについて、注意が必要であることを示します。



コラム

関連する基礎知識や細かい技などを解説しています。

第 I 部 概要

『何としても二階に上がりたい、どうしても二階に上がろう。
この熱意がハシゴを思いつかせ、階段を作りあげる。
上がっても上がらなくともと考えている人の頭からはハシゴは生まれない』
松下 幸之助 (松下電器)

ここでは、標準エラーメッセージの概要について説明します。
構成は、次のとおりです。

第 1 章 メッセージの使用方法
エラー・メッセージに関する一般情報および補足的ヒントを紹介します。

第 2 章 メッセージの命名規則とオーバーライド
各 Web アプリケーションで採番するメッセージコードの採番ルールと標準メッセージのオーバーライド(上書き)方法について説明します。

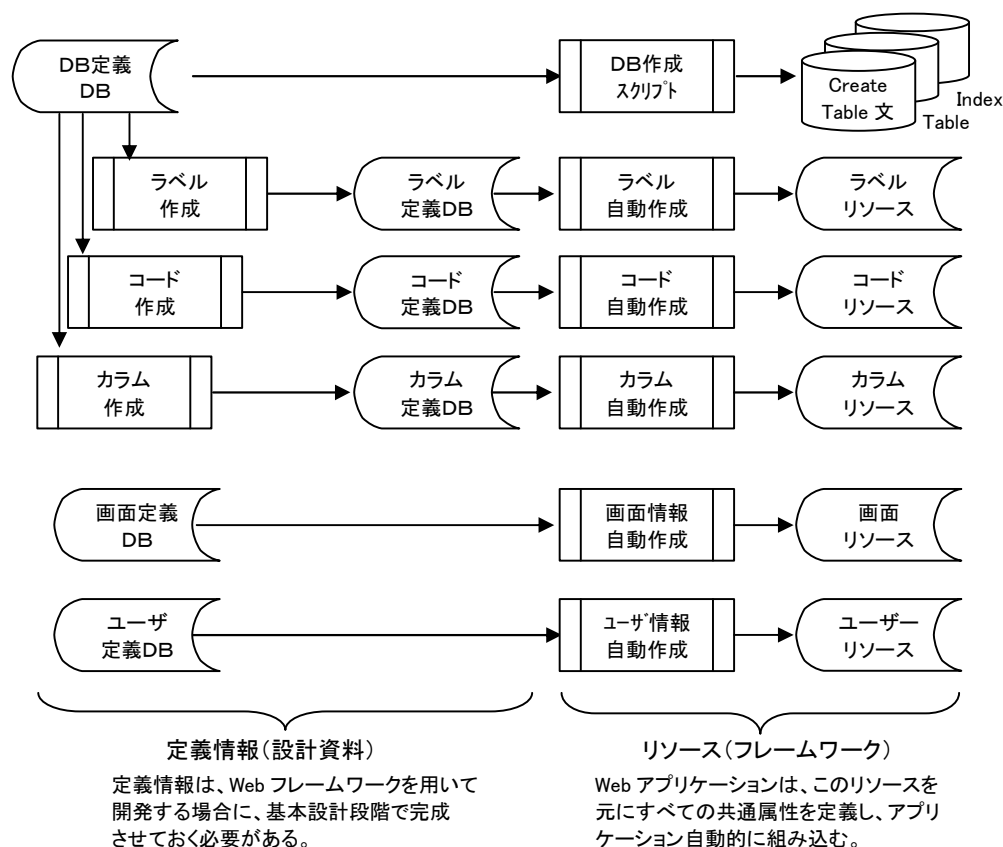
openGion
openGion
フレームワーク

第1章 リソース情報

この章では、Webアプリケーションで必要なリソースを制御する方法について説明します。
エラーメッセージを説明するに当たり、リソースの管理方法を理解しておくことは重要です。

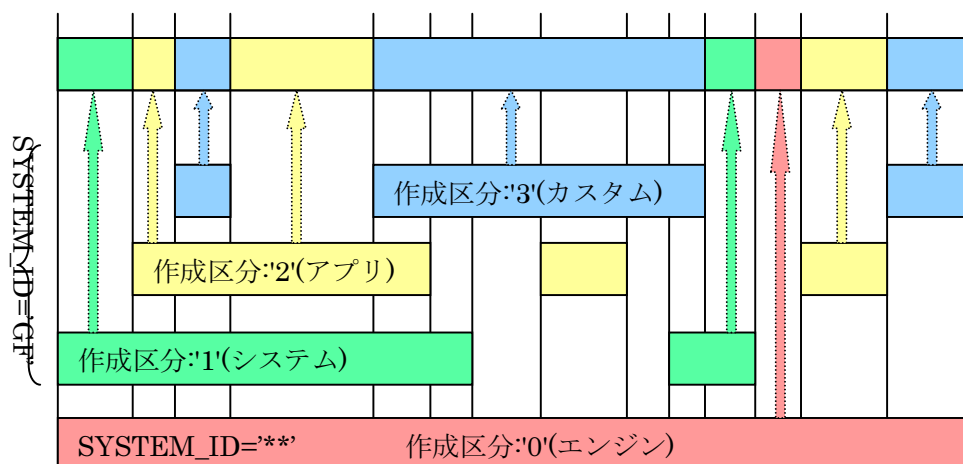
1. リソース管理

当フレームワークを利用して開発する場合、各種リソースが必要になります。リソースとは、画面、項目(カラム)、ラベル、項目選択肢(コード)、ユーザーなどの基本情報と、それに付随するアクセス制限(ロール)、言語(国際化対応)、表示種別(レンダラー)、編集種別(エディター)、データ論理属性(DBタイプ)など、プログラミング時にアプリケーション全般に共通に使用される情報です。当フレームワークでは、それらを一元管理し、ノン・コーディングで利用しています。これらのリソースを作成するにあたり、非常に重要なのがデータベース設計です。データベース設計をするためのデータベースをあらかじめ準備しておき、その情報よりリソースデータの自動作成を行うことで、作業効率の向上を図っています。これらのリソースファイルを基本設計時に用意しておく必要があります。



2. リソースの階層管理

フレームワークのリソースは、階層構造を持っています。エラーメッセージを管理しているラベルリソースも同様です。



リソースは、SYSTEM_ID 単位に持ちます。ただし、SYSTEM_ID='**'として、標準リソースが定義されています。なにもしなければ、この標準リソースが使われます。

次の階層は、各 SYSTEM_ID 単位に持つリソースです。各 SYSTEM_ID の内部で、作成区分を持っています。この値が大きいくほど、強いリソースという事になります。

先の SYSTEM_ID='**'のリソースの作成区分は、'0' です。

同一 ID のリソースが存在する場合は、作成区分が、'1' → '2' → '3' ... と大きくなるほど有効です。

つまり、基本システムに対して、作成区分の大きなリソースを「追加」することで、リソースの変更が可能で、元のリソースに戻したければ、先に追加したリソースを「削除」すればよいことになります。なお、既存に定義されているリソースを削除することはできません。これは、システムそのものが、先に準備されているリソースを利用することを前提に作られている可能性があるためです。

存在していないリソースを追加することは、問題なく可能です。その場合は、アプリケーションの作成が前提です。(でないと、追加したリソースを使う箇所が存在しないことになります。)

第2章 メッセージの使用方法

この章では、エラー・メッセージに関する一般情報および補足的ヒントを紹介します。

1. メッセージの種類

フレームワークには、あらかじめ、SYSTEM_ID='**' 作成区分='0' のメッセージが組み込まれています。システム起動時に、フレームワークのバージョン番号がアップしていれば、データベースに書き込まれます。

つまり、SYSTEM_ID='**' 作成区分='0' のメッセージを追加、更新したとしても、消えることを意味します。先に述べたように、SYSTEM_ID 毎に作成するか、作成区分を'0'以上にして作成しておく必要があります。

エラーメッセージは、標準メッセージと、エラーメッセージの2種類存在します。

標準メッセージは、MSGxxxx (xxxxは連番) で定義され、エラーメッセージは、ERRxxxx (xxxxは連番) で定義されます。

メッセージのリソースは、ラベルリソースとして管理されるため、カラム名称もメッセージも区別がありません。よって、ID の採番方法で区別することをお勧めします。

(ラベルメッセージの属性に、「ラベル区分」というのがあり、一応データとして区別することは可能ですが、フレームワークの内部処理としては区別していません。)

メッセージを独自に作成する場合は、上記の MSGxxxx や ERRxxxx を使うと、混乱をきたす場合がありますので、登録時の採番ルールを決めてください。

たとえば、SYSTEM_ID + Mxxxx とすると、GFMxxxx や GFExxxx などとできます。

2. 国際化対応

メッセージは、リソース DB で管理されています。

リソース関係で、ユニーク属性に含まれる言語属性 (LANG) を持つのは、この、ラベルリソースだけです。ユーザーリソースの LANG 属性は、単なる属性であり、ログイン時の言語を決定するのに利用されるだけです。

国際化する場合は、この、ラベルリソースのデータを言語単位に作成することで、実現できます。

以前のバージョンでは、国際化対応として、リソースを properties ファイルで管理していたため、デフォルト以外と、差分として各国語に翻訳されたメッセージを独自に持つことが出来ましたが、最新のリソース DB では、言語に対する階層化は持っていません。必要であれば、一旦すべてのラベルリソースを移してから、翻訳してください。

3. リソースの取得先

リソースは、データベースで管理されていますが、その取得先は、通常は、システムのデータベースになっています。

ユーザーリソース(GEA10)を除く他のリソース(カラム(GEA03),ラベル(GEA08),コード(GEA04),画面(GEA11),システムパラメータ(GE12),アクセス統計(GE15),ユーザーパラメータ(GE16),URL 転送(GE17))のデータベースを通常の、DEFAULT_DB_URL 設定値以外の場

所にアクセスする場合に、RESOURCE_DBID で指定します。
 この値は、システムリソースとして設定できます。
 DBID は、あらかじめ、opengion/uap/webapps/gf/WEB-INF/DBConfig.xml で定義しておいて下さい。

4. メッセージの文法

メッセージリソースは、ラベルリソースとして管理されますが、メッセージとして利用する場合は、特別に引数処理が可能です。これは、java.text.MessageFormat を用いて処理されます。

MessageFormat の、引数には、フォーマットタイプを指定できます。すべての引数は、String (文字列)とみなして処理されます。
 引数は、{0} ～ {9} までの数字で指定できます。

通常のタグでは、引数は、指定できませんが、message タグで指定する場合は、10個分フルに指定することが可能です。

PL/SQLからのエラーメッセージは、引数を5個まで指定できます。

引数は、{0} のように、{} で囲み、中に引数の順番を入れます。

例) リソース文字

```
ERR0013=マスター未登録エラー。キー {0} は、{1} に存在していません。
ERR0014=マスター登録済みエラー。キー {0} は、{1} にすでに登録済みです。
ERR0015=データがありませんでした。 キー {0} で {1} しましたが、0件でした。
ERR0016={0} エラー。 キー {1} で {2} しましたが、{3} のため、{4} でした。
ERR0017=選択エラー。選択行数 ({0} 件) が、制限値 ({1} 件) 以上選ばれました。
ERR0018=選択エラー。選択行数 ({0} 件) が、制限値 ({1} 件) 以下選ばれました。
```

5. メッセージの表示

メッセージ(ラベル)を JSP 画面上で利用するには、2種類の方法が用意されています。

1つ目は、{@LBL.XXXX} と記述することです。これは、ラベルリソースの ID を、XXXX 部分に記述することで、タグリブの BODY 部で解析され、ラベルが表示されます。

この記述では、ラベルリソースのタイプ (Label, Short, Tips, Description, RawShortLabel) は指定できますが、引数は指定できません。

例:

```
{@LBL.XXXX}
XXXX {ラベル ID を指定します。}
{@LBL.XXXX %Y}
%Y の Y 部分に、ラベルリソースのタイプ Label, Short, Tips, Description,
RawShortLabel を指定します。%Y が指定されない場合、つまり、先の例の
標準ケースでは、Label が指定されたのと同じになります。
この、%Y は、先頭1文字しか見ていませんので、頭文字('L','S','T','D','R')
の指定でも構いません。
{@LBL.XXXX @ZZ}
%Y の記述で、リクエスト引数を指定できます。@ZZ の箇所、ZZ という
```

第2章 メッセージの使用方法

リクエスト変数に、'%' と渡すことで、Short タイプを指定できます。
{@LBL.@XXXX}

ラベル ID の指定方法として、リクエスト引数を渡すことができます。
@XXXX の箇所がそれで、XXXX がリクエストのキーになります。
これらは組み合わせて使用することも可能です。

2つ目は、message タグを使用する方法です。こちらは、ラベルリソースのタイプも、引数の指定も可能です。

例:

```
<og:message
  lbl      = "ラベル ID"      ラベルリソースのラベル ID
  language = "[ja|en|zh]"     タグ内部で使用する言語コード
  command  = "{@command}"     コマンド (INSERT, COPY, MODIFY, DELETE)
  comment  = "コメント"       コメント
  type     = "Short"          タイプを (Label, Short, Tips, Description) 指定
  val0     = "AAA"            メッセージの引数 {0}
  ~
  val9     = "BBB"            メッセージの引数 {9}
  caseKey  = "{@ckey}"        このタグ自体を利用するかどうかの条件キー
  caseVal  = "{@cval}"        このタグ自体を利用するかどうかの条件値
/>
```

6. PL/SQLのエラーメッセージ

PL/SQLで検索/登録する場合に、実行時エラーやエラーチェックでエラーメッセージを返す場合、エラーコードと引数を使用します。

例)

```
CREATE OR REPLACE PACKAGE INSERT_DB01_PKG AS
  PROCEDURE INSERT_DB01 (
    P_KEKKA      OUT      NUMBER,
    P_ERRMSG     OUT      ERR_MSG_ARRAY,
    P_NAMES      IN       VARCHAR2,
    P_SYSARGS    IN       SYSARG_ARRAY,
    P_DB01ARG    IN       DB01ARG_ARRAY );
END;
```

P_KEKKA は、そのPL/SQL全体を通しての結果で、以下のコードを返します。

記号	コード	説明
OK	0	正常な場合
WARNING	1	警告。処理は正常終了します。
NG	2	エラー。ロールバックします。
EXCEPTION	8	エラー (拡張用予約)
ORCL_ERR	9	エラー (拡張用予約)

※ 記号は、エラーコードに対応するメニューです。(内部記号)

P_ERRMSGs は、別途定義済みの ERR_MSG_ARRAY です。
このARRAY に値を設定する為に、SET_ERRMSGs PROCEDURE を用意しています。

```
PROCEDURE SET_ERRMSGs
(P_ERRMSGs IN OUT ERR_MSG_ARRAY,
 P_NO      IN      NUMBER      := NULL,
 P_KEKKA   IN      NUMBER      := NULL,
 P_ID      IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG1    IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG2    IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG3    IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG4    IN      VARCHAR2    := NULL,
 P_MSG5    IN      VARCHAR2    := NULL );
```

引数	入出力	説明
P_ERRMSGs	IN OUT	エラーメッセージ配列
P_NO	IN	行番号
P_KEKKA	IN	このメッセージに対する結果(エラーコード)です。このARRAYは、複数のメッセージを登録できる為、エラーやワーニングや正常な場合のメッセージも個別に登録できます。
P_ID	IN	エラーメッセージID
P_MSG1	IN	メッセージパラメータ1 {#ラベル ID} を使用するとそのラベルIDに対応する言語に応じたリソースが使用されます。
P_MSG2	IN	メッセージパラメータ2(同上)
P_MSG3	IN	メッセージパラメータ3(同上)
P_MSG4	IN	メッセージパラメータ4(同上)
P_MSG5	IN	メッセージパラメータ5(同上)

第 II 部 システム予約メッセージ一覧

『新しい技術への挑戦というリスクを取らない方がリスクは大きい。
この世界では、何もしないことが一番大きなリスクになる』
ラリー・エリソン（オラクル創業者）

ここでは、個々のメッセージについて記載します。
構成は次のとおりです。

第3章 標準メッセージ

Webアプリケーションの標準エラーメッセージについて記載します。

第4章 エラーメッセージ

Webアプリケーションのエラーメッセージについて記載します。

Web
Web
アプリケーション

第3章 標準メッセージ

この章では、Web アプリケーション標準メッセージについて記載します。

メッセージID	メッセージ
MSG0001	選択して下さい。
MSG0002	ソート順
MSG0003	ファイルの登録が完了しました。
MSG0004	メールの登録が完了しました。
MSG0005	テンポラリの添付ファイル削除に失敗しました。
MSG0006	添付ファイルがある場合は、先に添付ファイルの選択を行ってください。
MSG0007	検索結果が、制限行数を超えましたので、残りはカットされました。
MSG0008	ようこそ {0} さん。
MSG0009	現在のタイムアウトは {0} 秒です。
MSG0010	検索(F)
MSG0011	クリア
MSG0012	表示件数
MSG0013	開始位置
MSG0014	お名前をどうぞ
MSG0015	アップロードファイル名
MSG0016	添付ファイル
MSG0017	状況表示
MSG0018	プール削除
MSG0019	名前
MSG0020	パスワード
MSG0021	もう一度やり直してください。
MSG0022	ファイル名
MSG0023	項目区切文字
MSG0024	ファイル形式
MSG0025	エンコード
MSG0026	出力モード
MSG0027	出力順
MSG0028.CSV	CSV 出力
MSG0028.DEFAULT	標準
MSG0028.FIXED	固定長出力
MSG0028.OPT	Default,Fixed,CSV,XML
MSG0028.PDFXML	PDFXML
MSG0028.XML	XML
MSG0029.DEFAULT	DEFAULT
MSG0029.EUC_JP	EUC_JP
MSG0029.JIS	JIS

第3章 標準メッセージ

MSG0029.MS932	MS932
MSG0029.SJIS	SJIS
MSG0030.FALSE	新規モード
MSG0030.OPT	true,false
MSG0030.TRUE	追加モード
MSG0031	ログインユーザー
MSG0032	検索条件
MSG0033	件検索しました。
MSG0034	追加(I)
MSG0035	複写(C)
MSG0036	変更(M)
MSG0037	削除(D)
MSG0038	登録(W)
MSG0039	ユーザー削除
MSG0040	件登録しました。
MSG0041	件変更しました。
MSG0042	件削除しました。
MSG0043	実行(R)
MSG0044	追加処理を行います。
MSG0045	複写処理を行います。
MSG0046	変更処理を行います。
MSG0047	削除処理を行います。
MSG0048	処理を取り消します。
MSG0049	戻る
MSG0050	取消
MSG0051	ダイレクト
MSG0052	ZIP 圧縮
MSG0053	選択(S)
MSG0054	連絡 NO:[0] を選択しました。
MSG0055	保存
MSG0056	開く
MSG0057	取込
MSG0058	削除
MSG0059	登録しました。
MSG0060	変更しました。
MSG0061	削除しました。
MSG0062	実行しました。
MSG0063	完了しました。
MSG0064	ファイルが存在していません。
MSG0065	
MSG0066	処理は存在していません。
MSG0067	処理は実行中です。
MSG0068	処理の実行中にエラーが発生しました。
MSG0069	処理をキャンセルしました。
MSG0070	再ロード

第 II 部 システム予約メッセージ一覧

MSG0071	フォルダの内容がおかしい場合は、右ボタンで『最新の状態に更新』してみてください。
MSG0072	テスト環境
MSG0073	本番環境
MSG0074	ファイルを出力しました。
MSG0075	処理を実行しますか？
MSG0076	拡張検索条件
MSG0077	対象データはありませんでした。
MSG0078	デーモンを強制的に停止させる場合は、そのデーモンが起動しているサーバで停止処理を行ってください。
MSG0079	戻る(R)
MSG0080	掲載中のみ
MSG0081	掲載番号
MSG0082	過去分検索
MSG0083	取消済非表示
MSG0084	(質問番号:{0})

第4章 エラーメッセージ

この章では、Web アプリケーション標準のエラーメッセージについて記載します。

メッセージID	メッセージ	メッセージ(短)
ERR0001.1	ユーザーログインエラーです。	
ERR0001.2	パスワードが異なるか、ユーザー登録されていません。	
ERR0001.3	管理者に相談して、必要であれば、登録してもらって下さい。	
ERR0001.T	ユーザーログインエラー	
ERR0002.1	セッションのタイムアウトか、またはユーザーログインエラーが発生しました。	
ERR0002.2	現在のタイムアウトは {0} 秒にセットされています。	
ERR0002.3	長時間使用しない場合は、セッションタイムアウトにより、サーバー側の負荷を軽減しています。	
ERR0002.4	もう一度、ログインし直して下さい。	
ERR0002.T	ユーザーログインエラー	
ERR0003.1	{0} さんは、このページを見る権限が与えられていません。	
ERR0003.2	管理者に相談して、必要であれば、権限を与えてもらって下さい。	
ERR0003.T	ロールエラー	
ERR0004.1	ユーザーログイン時に予期せぬエラーが発生しました。	
ERR0004.2	管理者に相談して、対応してもらってください。	
ERR0004.T	予期せぬエラー	
ERR0005.1	あなたはユーザー認証に3回以上の失敗をしました。	
ERR0005.2	これは、このサイトに対して不正アクセスを試みようとされていると判断いたします。	
ERR0005.3	間違いであれば、管理者とご相談ください。	
ERR0005.T	不正アクセスエラー	
ERR0006	文字列の長さが指定の長さよりも長いです。key={0} value={1} len=[{2}] > [{3}]	桁数オーバー
ERR0007	全てが全角文字ではありません。key={0} value={1}	全角以外入力不可
ERR0008	指定文字数が負です。key={0} value={1}	指定文字数エラー
ERR0009	指定の文字以外の文字が使われています。key={0} value={1}	不正文字エラー
ERR0010	HTML タグは登録できません。key={0} value={1}({2}) char={3}	HTML タグ登録不可
ERR0011	文字列の長さが指定の長さとは異なります。key={0} value={1} len=[{2}] != [{3}]	桁数エラー
ERR0012	指定のデータがセットされていません。key={0}	必須入力エラー
ERR0013	マスター未登録エラー。キー {0} は、{1} に存在していません。	マスター未登録エラー

第 II 部 システム予約メッセージ一覧

ERR0014	マスター登録済みエラー。キー {0} は、{1} にすでに登録済みです。	マスター登録済みエラー
ERR0015	データがありませんでした。キー {0} で {1} しましたが、0件でした。	データなしエラー
ERR0016	{0} エラー。キー {1} で {2} しましたが、{3} のため、{4} でした。	
ERR0017	選択エラー。選択行数 ({0} 件) が、制限値 ({1} 件) 以上選ばれました。	
ERR0018	選択エラー。選択行数 ({0} 件) が、制限値 ({1} 件) 以下選ばれました。	
ERR0019	データベースエラーが発生しました。	
ERR0020	データ登録時にワーニングが発生しました。	
ERR0021	整数部の長さが指定の長さよりも長いです。key={0} value={1} len=[{2}] > [{3}]	整数部の桁数オーバー
ERR0022	少数部の長さが指定の長さよりも長いです。key={0} value={1} len=[{2}] > [{3}]	少数部の桁数オーバー
ERR0023	符号の位置が不正です。key={0} value={1}	符号位置エラー
ERR0024	小数点の位置が不正です。key={0} value={1}	小数点位置エラー
ERR0025	データ未登録エラー。キー={0}、値={1} のデータは、存在していません。	データ未登録エラー
ERR0026	データ登録済みエラー。キー={0}、値={1} のデータは、すでに存在しています。	データ登録済みエラー
ERR0027	データ2重登録エラー。キー={0}、値={1} のデータは、重複して存在しています。	データ2重登録エラー
ERR0028	選択されていません。もう一度、選択しなおして下さい。	
ERR0029	複数選択されました。1件のみ選択しなおして下さい。	
ERR0030	入力したデータが不正です。key={0} value={1} 形式={2}	
ERR0031	該当データが存在しませんでした。Table={0} [key:val]=[{1}:{2}]	
ERR0032	該当データが存在しませんでした。Table={0} [key:val]=[{1}:{2}],[{3}:{4}]	
ERR0033.1	画面とデータの整合性チェックでエラーが出ました。	
ERR0033.2	すでにデータは更新されている為、その画面からは登録できません。	
ERR0033.3	ブラウザの戻るボタンで戻り、登録すると、このエラーが出ます。	
ERR0034	指定のカラムオブジェクトには、カラムリソースが存在しません。 name={0} label={1}	
ERR0035.1	ブラウザを同一セッションで複数オープンしています。	
ERR0035.2	セッション内でメモリ共有している為、思わぬトラブルが発生する可能性があります。	
ERR0035.3	ブラウザを複数オープンする場合は、ログインダイアログ経由でオープンしてください。	
ERR0035.T	同一セッションでのマルチ起動エラーです。	
ERR0036	選択必須エラー。以下のデータの内どれかは入力してください。 key={0}	
ERR0037	データ整合性エラー。指定のキーは整合性チェックの結果マッチしませんでした。key={0} val={1} regex={2}	

第4章 エラーメッセージ

ERR0038	{0} は、{1} には使用できません。	
ERR0039	改廃 C が不正です。改廃コード={0}	
ERR0040	送信処理エラー	

索引

{	
{@LBL.XXXX}	11
D	
DBConfig.xml	11
DEFAULT_DB_URL	10
M	
MessageFormat	11
message タグ	11, 12
P	
PL/SQL	12
R	
RESOURCE_DBID	11
S	
SET_ERRMSG	13
SYSTEM_ID	10
え	
エラーチェック	12
エラーメッセージ	18
お	
オーバーライド	7

か	
階層構造	9
カスタムメッセージ	10
く	
組込標準メッセージ	10
け	
言語属性	10
こ	
国際化対応	10
さ	
作成区分	10
し	
実行時エラー	12
ひ	
引数処理	11
標準メッセージ	15
り	
リソース	8